

## インドが追加利下げ 今年3回目

### インド追加利下げ

6月2日、インド準備銀行(中央銀行)は定例の金融政策決定会合を開き、政策金利(レポ金利)を現行の7.50%から7.25%へと0.25%引き下げました。今年に入って3回目、累計引き下げ幅は0.75%となります。

インド準備銀行のラジャン総裁は、前回の定例会合で追加利下げを見送った理由について、過去2回の利下げの効果を見定めるためとしていました。今回は力強さに欠ける企業投資を活性化させ、景気拡大を後押しするために利下げを決断したようです。

産業界からの強い要請があったとの見方もあります。また、原油安等を背景に4月の消費者物価(前年同月比)が4%台と準備銀行が当面の目標とする6%を下回っており、インフレの鎮静化が利下げを容易にした可能性もあります。

### 市場の反応(6月2日、前日比)

インド準備銀行は、今年に入って1月、3月と計2回の利下げを行っていますが、何れも臨時会合によるもので、市場にサプライズ(驚き)を与えたとされています。今回の利下げはラジャン総裁就任後初の定例会合での決定であり、下げ幅を含めて大方の事前予測通りだったようです。

利下げ期待等を背景に前日まで株式市場(SENSEX指数)は上昇、金利(10年国債金利)は低下(価格上昇)していただけに、材料出尽くしと判断した投資家等の損益確定の売り等により、6月2日の株式市場は下落、金利は上昇しています。為替(インドルピー)は金利差縮小等を受け、対米ドル、対円で下落しています。

### 今後の見通し

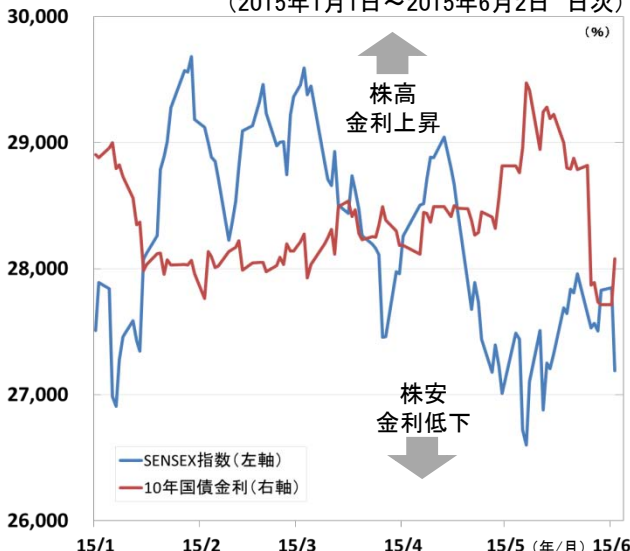
「メイク・イン・インディア(インドで作ろう)」のスロガーンのもと、規制緩和・対外開放に取り組むモディ政権ですが、野党との調整に時間がかかる等、改革は遅れ気味の様です。実際、税制の簡素化のための物品・サービス税(GST)の導入、複雑な土地取得手続きの見直し等、モディ政権が取り組むべき課題の中には時間がかかりそうなものが多く含まれていると思われます。

財政赤字削減にも取り組むモディ政権にとって、安易な財政出動による景気刺激策は取りにくいものと思われ、当面の景気対策の中で準備銀行の担う役割は更に大きくなるものと考えます。

6月2日時点での政策金利は7.25%で、物価水準などからすると更なる利下げ余地もありそうです。今後の見通しとして、金融政策で景気の下支えを行いつつ、徐々にモディ政権が進める規制緩和・構造改革(モディノミクス)が効果を発揮し始めるシナリオを想定しています。モディ政権やインド経済に対する期待感が再度高まれば、株式市場等に好影響をもたらす可能性もあると考えます。

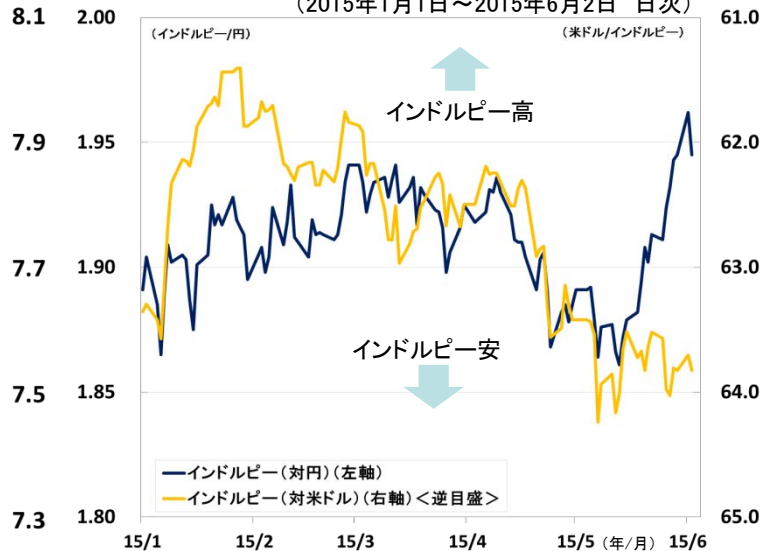
【図表1】インド株式とインド10年国債金利の推移

(2015年1月1日～2015年6月2日 日次)



【図表2】インドルピー(対米ドル・対円)の推移

(2015年1月1日～2015年6月2日 日次)



(出所) 図表1、2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成